

武道「柔道」

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力

主体性・積極性

日時：平成29年10月20日（金）1校時

学級：第1学年A組（男子15名 女子14名 合計32名）

場所：賀茂川中学校 柔道場

1 単元について

(1) 単元観

中学校学習指導要領では、F「武道」の第1学年及び2学年について、武道は武技・武術から発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動であると示され、武道に積極的に取り組むことを通して、伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

柔道を含む武道は、中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる技を確実に身に付け、身に付けたことを用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにすることが求められる。

柔道において、技能では相手と直接組み合って、攻防を展開しながら互いに「一本」を目指して勝敗を競い合う楽しさを味わうことのできる運動である。また、態度では相手と直接的に攻防するため、作法や所作を守り、相手を尊重する気持ちを込めて行うことが大切となる。さらに、知識、思考・判断では勝敗を競い合う中でも、技能の習得を通して礼法を身に付けるなどの人間形成を重視するといった考え方を理解するとともに、技の名称や技術的なポイントを見付けたり、課題に応じた練習を選択したりする学習活動を仕組むことができる。

(2) 生徒観

保健体育の授業は男女共習であり、男女で活動する場面が多い。授業規律を徹底し、一つの学習集団であることを意識させながら、時間を守ることや集団としてまとまる力を仕組むことを行ってきた。体育分野の球技では1学期男女合同のチームで活動させ、思考することや技能を高めることについて、意図的に協力させてきた。また、保健分野でも男女合同でグループ学習を進め、個人の思考と他者の意見を比較し、考えをまとめることを仕組むことで思考力・判断力を高めることにつなげている。新体力テストの結果から男子全体の体力平均値がC評価、女子全体の体力平均値がA評価で女子の方が体力的に高いといえる。柔道に関する意識アンケートから「柔道は楽しそう」と回答した生徒は全体で37%、「柔道は怖そう」と回答したせいとは全体で65%、「柔道は危なそう」と回答した生徒は全体で93%、「柔道の技や礼儀作法を身に付けたい」と肯定的に回答した生徒は98%である。

(3) 指導観

柔道の学習から、柔道の特性である「精力善用」「自他共栄」の考えを理解させ、伝統的な行動や相手のことを尊重した礼儀作法を身に付けさせ、基本動作や相手との攻防が展開できるようにする。

1学年は意識アンケートからわかるように柔道未経験の生徒で恐怖心や危険なイメージをもち、

楽しみ方のイメージが低いと考えられる。柔道の受け身、投げ技、抑え技など危険な面を確実に理解させる。2，3年生へつなげていけるよう安全面に配慮し，生徒が礼儀作法や柔道特有の行動の仕方や柔道の楽しい面を見付けることができるように指導する。学習意欲と同時に思考力・判断力・表現力を育成するため，評価規準を生徒に明確に示し，ペアやグループ学習を行うことで相手と関わる場を設定する。

支援の必要な生徒や思考力・判断力・表現力を高めるためにICTを活用する。電子黒板では実際の映像や支援につながる図を提示することやタブレットでは自分と他者の動画を比較することや自分の課題に気づき，何を改善するのが良いかを思考させたい。

2 単元の目標

- 次の運動について，技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，得意技を身に付けることができるようにする。柔道では，相手の動きの変化に応じた基本動作から，基本となる技，得意技連絡技を用いて，相手を崩して投げたり，抑えたりするなどの攻防を展開すること。【技能】
- 武道に自主的に取り組むとともに，相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事，自己の責任を果たそうとすることなどや，健康・安全を確保できるようにする。

【関心・意欲・態度】

- 伝統的な考え方，技の名称や見取り稽古の仕方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解し，自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【思考・判断，知識】

3 評価規準

【単元の評価規準】

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能	エ 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・自己の役割を果たそうとしている。 ・自己の健康や安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ・自己の課題を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作を身に付け，攻防を展開するための動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武道の特性や成り立ちを理解している。 ・技術の名称や行い方を理解している。

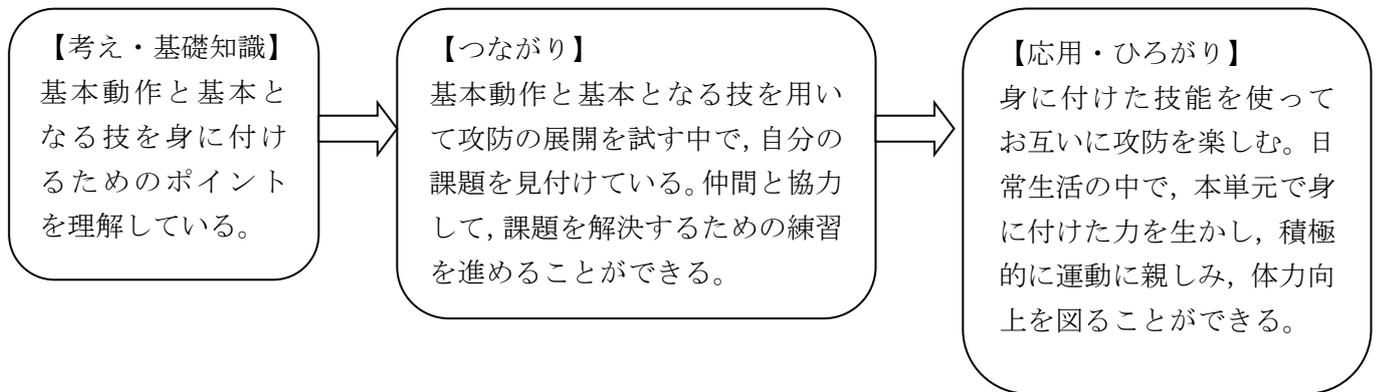
【学習活動に即した評価規準】

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能	エ 知識・理解
① 安全に気を配り，相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。	① 技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。	① 柔道の攻防を展開するための基本動作ができている。	① 柔道の特性や成り立ちについて，学習した具体例を挙げている。
② 仲間の学習を援助しようとしている。	② 自己の課題を見付けている。	② 相手の動きに応じた基本動作から基本となる技ができている	② 技の名称や行い方について，理解したことを言ったり書き出したりしている。

4 本校において育成しようとする資質・能力（○印は本単元において育成しようとする資質・能力）

スキル	思考力・判断力・表現力	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本動作や技の課題を見付け出し学習に取り組んでいる。 課題を解決するためのポイントを見付け出し、学習に取り組んでいる。
意欲・態度	主体性・積極性	○	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組み、意見やアドバイスをし合いながら学習している。
価値観・倫理観	知識・情報活用能力		<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組み、意見やアドバイスをし合いながら学習している。 柔道の伝統的な行動の仕方や基礎知識・技能を理解している。

5 単元のICEモデルイメージ



6 指導と評価の計画（全10時間）

次	学習内容	評価の観点					
		ア	イ	ウ	エ	評価規準	評価方法
1	オリエンテーション 柔道の特性・柔道着の扱い方	○			◎	ア①安全に気を配り、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 エ①柔道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。	行動観察 ワークシート
2	受け身の方法を理解する。	◎			○	ア①安全に気を配り、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 エ②技の名称や行い方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。	行動観察 ワークシート
3	正しい受け身ができる。		◎	○		イ①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ウ①柔道の攻防を展開するための基本動作ができています。	行動観察 ワークシート
4	正しい抑え技ができる。		○	◎		イ①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ウ①柔道の攻防を展開するための基本動作ができています。	行動観察 ワークシート

5	条件付きの抑え技ができる	○	◎	ア②相手を尊重し、仲間の学習を援助している。 ウ①柔道の攻防を展開するための基本動作ができている	行動観察 ワークシート
6	投げ方の基本動作を理解する。	○	◎	ア②相手を尊重し、仲間の学習を援助している。 エ①柔道の特性や成り立ちについて学習した具体例を挙げている。	行動観察 ワークシート
7	投げ技の正しいかけ方を見付ける。	◎	○	イ①自己の課題を見つけている。 ウ②相手の動きに応じた基本動作から基本となる技ができている。	行動観察 ワークシート
8	自分の技の課題を見付ける。	◎	○	イ②自己の課題を見つけている。 エ②技の名称や行い方について理解したことを言ったり書き出したりしている。	行動観察 ワークシート
9	自分の技で相手を投げることができる。	○	◎	ア①安全に気を配り、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ウ②相手の動きに応じた基本動作から基本となる技ができている	行動観察 ワークシート
10	まとめ 自己の課題と2年生に向けて	○	◎	イ①運動から自己の課題を見つけている。 エ②技の名称や行い方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。	行動観察 ワークシート

7 本時の学習（7時間目／全10時間）

- (1) 本時の目標
投げ技の、正しいかけ方を見付けよう。
- (2) 教科の評価規準
自己の課題を見つけている。（思考・判断）
基本動作から基本となる技ができている。（技能）
- (4) 準備物
電子黒板 タブレット 柔道着 ワークシート
- (5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	具体的評価規準 (評価方法)
つかむ (5分)	1 整列・準備運動		
	2 課題意識をもつ。		
	3 本時のめあてを確認する。		

課題：投げ技を正しくかけるにはどんなことが必要だろうか。

考える・深める (40分)	目標：投げ技を正しくかけることができる条件を見付けることができる。		
	<p>4 動画や写真を活用し、投げ技の正しいかけ方を見付ける。</p> <p>5 タブレットで動画撮影・比較を行い、正しくかけることができているか確認する。</p>	<p>◇グループでの順番や役割分担を明確にする。</p> <p>◆チェック項目提示し、見取る視点を明確にする。</p> <p>◇技が正しく、滑らかに入れることができるようにさせる。</p> <p>◆練習での課題でのポイントを意識させる。</p>	<p>自己の課題を見付けている。 (行動観察・ワークシート)</p> <p>基本動作から基本となる技ができている。 (行動観察・ワークシート)</p>
振り返る (5分)	6 ふりかえり 目標達成の確認	<p>◇見つけた条件を理由づけで発表させる。</p> <p>◆活動をしての課題を明確にさせる。</p>	